

Hawkeye™

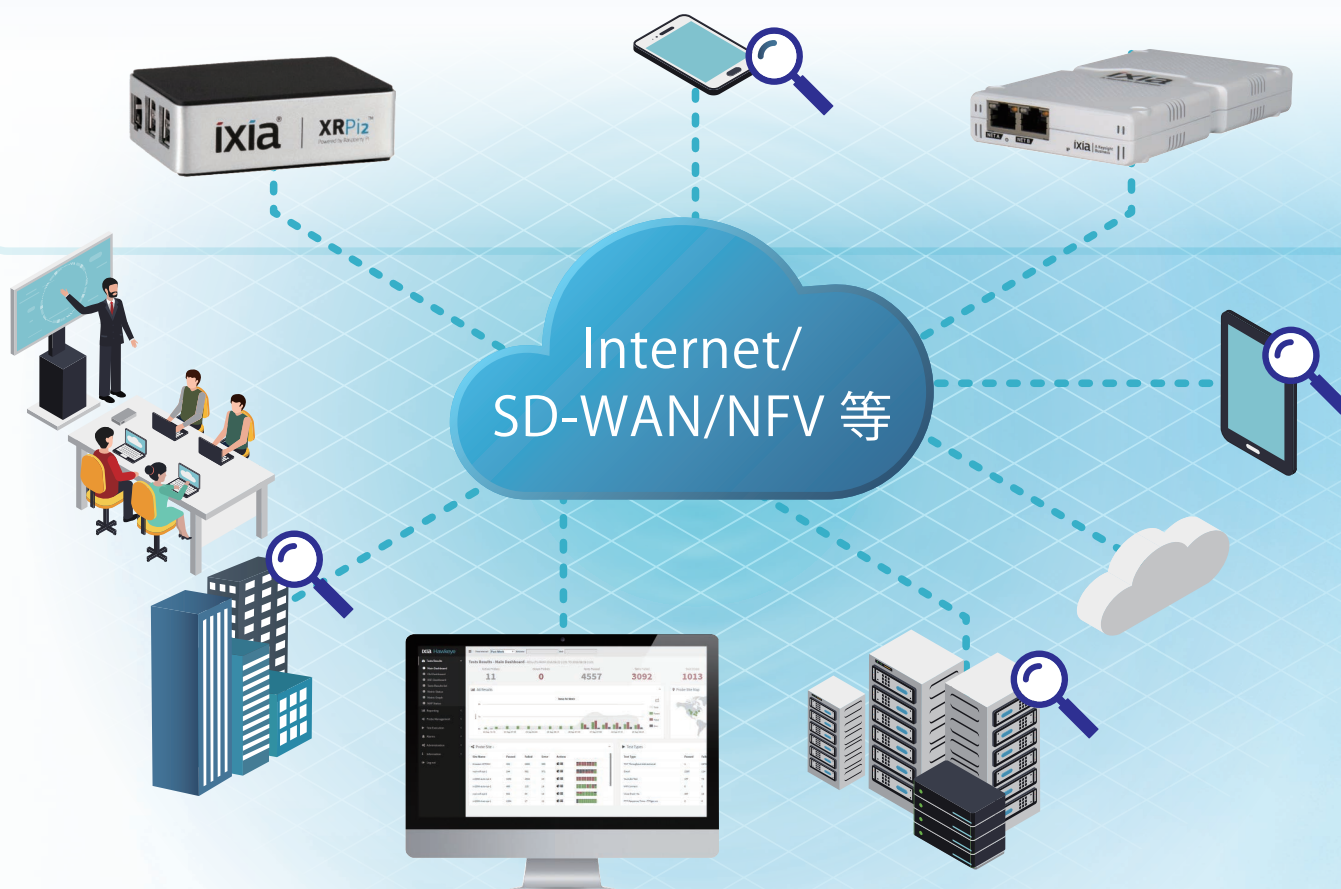
ホークアイ

ixia
A Keysight Business

リアルネットワーク向けエンドツーエンドのアクティブモニタリングソリューション

Hawkeye の活用イメージ

Hawkeye は、Endpoint といわれるソフトウェア/ハードウェア型のエージェント同士がテストデータのやり取りを行い、定常的なネットワーク品質の測定やネットワーク障害ポイントの特定を行います。



Hawkeye のシステム構成

Hawkeye コンソール

- ・テスト実行、Endpoint の管理
- ・VMware OVA 形式でご提供

Endpoint

ハードウェア型 Endpoint



XRPI2
100Mbps 対応



IxProbe
1Gbps 対応

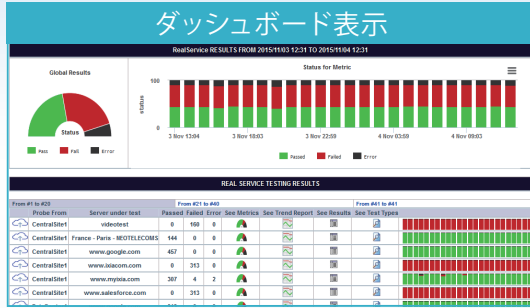
ソフトウェア型 Endpoint



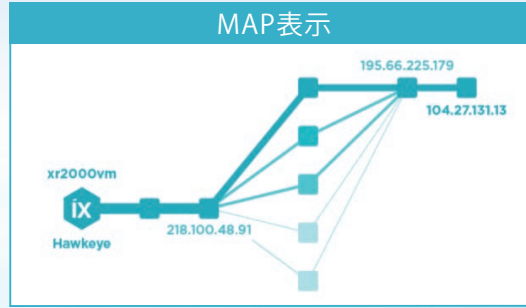
インストールは
無制限

- ・ Microsoft Windows 7/8.x/10 以上 32/64bit
- ・ Microsoft Windows Server 2008R2 34/64bit
- ・ Linux 32/64bit
- ・ Mac OS 10.6.0 以上
- ・ Android v5.0 以上
- ・ iOS v8.0 以上
- ・ AWS/VMware/OpenStack

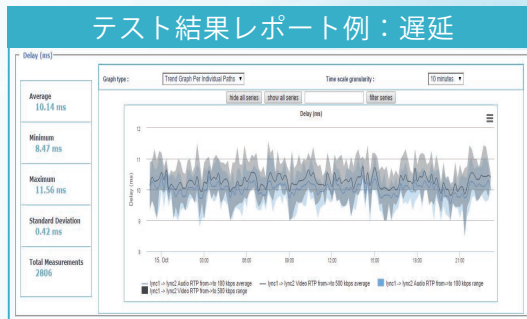
Hawkeye の分析画面、操作イメージ



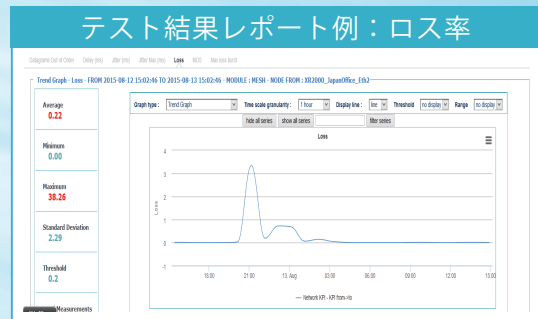
全体のテスト状況を緑(成功)、赤(失敗)、黒(エラー)で表示



ネットワークポロジを可視化



テスト結果レポート例：遅延



テスト結果レポート例：ロス率

テスト結果ごとの表示が可能

Hawkeye テスト項目例

(テストは定期的に自動実行)

項目	測定項目
ネットワークKPI	RTPパケットを50pkts/sec送信し、ネットワークKPIの遅延、ジッター、パケットロスとMOSスコア(G.711)を測定
TCP/UDPスループット	レイヤ4の平均スループット(kbps)、UDPはパケットロスも測定
音声	選択したG.711、G.729、AMRコーデックのRTPパケットを送信し、遅延、ジッター、パケットロス、MOSスコア、パケットロスバーストを測定
ビデオ	指定したビットレートとMPEG2のビデオRTPパケットを送信し、遅延、ジッター、パケットロス、MDIスコアを測定
リアルサービス	Email、FTP、HTTP、Exchange、YouTube など(アプリケーションによってテスト内容は異なる)

Hawkeye の特長

- 複雑化するネットワークから、客観的な品質のメトリクスを引き出し、状況の把握が可能
- Endpoint から任意の遠隔地へのネットワークポロジを可視化
- 100種類以上のライブラリを利用して多数の項目を評価
- QoE や QoS を持続的に監視してプロアクティブに問題箇所を特定・検知
- 定義済みの KPI と比較して品質基準を満たしているかどうかを確認
- ソフトウェア Endpoint なら無制限にインストール可能

※本リーフレットに記載の製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。
 ※本リーフレットの記載内容(製品仕様、価格など)は、改良のため予告なしに変更する場合があります。

製品及びご購入に関するお問い合わせ